

9 地域文化について考える

「現代の地理学」第9週

地域文化とは (1)

▶ モダニティの中の地域文化

- ▶ 「地域文化」は近代(モダニティ)という特定の時間と空間の変容の中で意味づけられる
- ▶ モダニティとは
 - ▶ 主として19世紀以降の普段の変化と革新によって特徴づけられる資本主義の拡大と連動する時間と空間の性質の変化
 - 正確な時間(鉄道、工場)
 - 規律化された身体と効率的な監視(衛生観念、軍隊、学校など)
 - 合理的な空間配置(植民地経営、都市計画)
 - ▶ テクノロジーの発達により日常生活と身体的経験の隔々に及ぶ
- ▶ モダニティの中でなぜ「地域文化」は注目されるのか

▶ 2

地域文化とは (2)

▶ 地域文化の分節化

- ▶ 近代以降、博覧会や展示会などで地域文化がディスプレイされ、観客が見たり、体験したりすることが顕著に
 - ▶ メディアが媒介し、流通・消費される
 - ▶ ローカルなものデザイン化、ローカルなコンテクスト(雰囲気や景色)の商品化、ローカルな商品のカタログ化(デパートやネットでの地域特産品販売)
- ▶ こうして地域文化が「はっきりしたものとして切り出されていく」(分節化される)

▶ 3

地域文化の発現形態 (1)

▶ ガイドブック

- ▶ 雑誌などの地域特集
- ▶ 「既知の東京をいったんパーツに分解し、そのどれかに特化することなく、それらを適宜組み合わせることで、ある意味で他の場所と交換可能な一つの「地域」として捉え、むしろそのモジュール(部分的)な組み合わせの中に発現する特異性を炙り出すという試み」(テキスト163頁)



<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/4028>

▶ 4

地域文化の発現形態 (2)

【リニューアル記念大特集】 北阪昌人・文 阿部吉泰・写真
大阪の**ほんまもん** ●お買いものワンダーランド！

■第1部 **達人と探す大阪のえもん**

酒井香代・文 日置武晴・写真

●土井善晴さんと行く

食の都で美味三昧

土井善晴・案内人

●不思議な夏の物語

空堀ノスタルジー

中江有里・旅人

●大阪ほんまもん案内マップ

■第2部 **大阪と百貨店**

近代モダンの花開いた

大阪の百貨店文化

橋本麻里・文 打田浩一・写真

橋爪節也・案内人

▶ 5

地域文化の発現形態 (3)

▶ 「遅れて発見された面白い場所」

- ▶ 大阪市北区中崎町周辺
 - ▶ もともとは古い長屋街
 - ▶ 十数年ほど前から長屋を店舗に使う若いオーナーの店が増え始める
 - ▶ 「レトロな古い町並みと隠れ家的なお店が混在する町」
- ▶ 「地域文化のある場所」
- ▶ 偏在・編集可能な代物



<http://www.analog-net.com/201002/major-201002-02.html>

<http://yaplog.jp/nonspeculoos/archive/21>

▶ 6



地域文化の発現形態 (4)

▶ 中崎町のパラレルワールド？

- ▶ 中崎町に長く住み、情報・メディアとは程遠い世界に生きる人々の暮らす空間 (使用価値)
- ▶ わたくしが商店街に生まれて、今年で53年になります。幼い頃には、店の前に映画館が2館ございました。最終上映が終わりますと両館より観客があふれ出て、商店街で買い物や飲食をしていただき、大変賑やかでした。時は流れ、映画館も廃業し、跡地が現在の黒崎公園となる頃から人通りが減り、商店街もさびれました。(平成21年3月6日黒崎東商店会 会長 青山隆一)
- ▶ 突如としてその空間に彼らにとっての別な「世界」ないしは「地域文化」がオーバーレイされる (交換価値)
- ▶ 大阪市北区中崎町周辺は「トロロな古い町並みの中にたくさんの隠れ家的小店があり、路地を散策するのがとっても楽しい地域です。人気のエリアですが、まだまだ知らない店も新しいお店もいっぱい！雰囲気も味も空間も存分に楽しめるカフェ・喫茶店をたくさん紹介します。(某情報サイト)
- ▶ 東京の事例(六本木ヒルズ: 図9-1)ほどメディアのイメージが乖離していないが、果たして将来は？(都心に近い便利な場所ゆえに...)

地域文化の構制 (1)

▶ 構制＝社会を取り巻く構造が身体化され、制度化されている状態

▶ 民芸

- ▶ 地域の文化として切り取られるモノは、外部からの介入的な「まなざし」によって分節化され、客体化される
- ▶ 分節化＝意識されなかったものが意識化されたり、曖昧だったものが形を結ぶようになつたりすること
- ▶ 民芸＝一昔前の生活の中で一般の民衆が使っていた生活雑貨としての諸工芸のこと
- ▶ 民芸をひとつの思想のようなものとして捉える視線
- ▶ 生き方であり、さらには市場を作り出すパワー
- ▶ 観光土産程度のものが商品価値を帯びる。
- ▶ そういふものとして見る眼(鑑識眼)が使用価値に交換価値を与える

地域文化の構制 (2)

▶ 琉球ガラス

- ▶ 吹きガラス工芸で「宙吹き法」、「型吹き法」により、4～5人のグループで製作される手作りガラス。
- ▶ 明治時代に長崎や大阪からやってきたガラス職人によって伝えられ、薬瓶やランプのほや等の生活用品が作られたのが始まり。
- ▶ 戦後、駐留米軍が使用したコーラやビールの色つきガラス瓶を再生して、彼ら向けにガラスを作っていた歴史を背景に、本来ならば不良品扱いとなっていた「気泡」や「厚み」も、アメリカナイズされた「一風変わった素朴なデザイン」として活かされ、そこから琉球独自のガラス文化が誕生しました。
- ▶ 現在の琉球ガラスは、原料や技法も格段に進化を遂げ、平成10年には沖縄県の伝統工芸品に認定されました。沖縄を代表する伝統工芸品。また、暮らしの中に溶け込む芸術品として、沖縄とともに日々発展し続けています。



琉球ガラス村
http://www.ryukyuglass.co.jp/about/glass/history/

地域文化の構制 (3)

▶ 「地方」的なものへの関心

- ▶ 庶民ではなく、知識人が発見
- ▶ 20世紀初めに地方(じかた)の研究が活発化
 - ▶ 郷土、民俗、民芸といった対象を実定化(＝新たな意味や概念や観念などが受け入れられて自明化)
 - ▶ 彼らの地方的なものへの「まなざし」が研究・調査の対象でしかなかったものを対象化
 - ▶ ただし、この知識人まなざしにはバイアスがある
 - ▶ 宗主国的、西洋的、特権的＝一方的な価値づけ



沖縄の薬元を調査する民芸同人ら。前列中央が河井寛次郎、後列左から2人目が浜田庄司＝1939年4月、那覇壺屋・新垣栄徳家で
http://www.chunichi.co.jp/article/shizuoka/shizu_area/folk_aru/list/2014/CK2014081602000208.html

地域文化の構制 (4)

▶ まなざし論

- ▶ 地域文化について、それまで対象化されなかったものが何らかの意味のある対象として分節化される
 - ▶ みえなかったものがみえるようになること
 - ▶ モノに対する意味や価値と見方が一挙に実体化されること
 - ▶ この「まなざし」は「社会的に構造化され組織化されている」、「記号を通して構築される」
- ▶ まなざしには固有のコード(符号体系)があつて言語のようなものになっている
 - ▶ そのコードを知らなければその言語を理解することはできない
 - ▶ 清水焼の「値打ち」はそれを理解できる人にしか理解できない
 - ▶ 民芸の意味や価値を共有する決め事を習得し共有した人々がサークル(同人会など)を形成し、まなざしを再生産

▶ 13

地域文化の構制 (5)

▶ モノをめぐる「文化＝芸術システム」(図9-4)

- ▶ 二つの対立軸
 - ▶ 真正—非真正
 - ▶ 傑作—単なる器物
- ▶ 4つの「意味の区域」
 - (1) 真正の傑作＝芸術(オリジナル、唯一無二)
 - (2) 真正の器物＝文化(伝統的、集会的)
 - (3) 非真正の傑作＝非文化(新しい、普通でない)
 - (4) 非真正の器物＝非芸術(複製、商業的)
- ▶ 琉球ガラスは(4)「戦後の不良品」から(2)「伝統工芸品」への移動
- ▶ 観光客用に反復される儀礼はもはや(4)



琉球料理と琉球舞踊「四つ竹」
<http://www.yotsutake.co.jp/>

▶ 14

地域文化研究の課題 (1)

▶ 歴史の層としての地域文化

- ▶ 沖縄県沖縄市コザ地区
 - ▶ 戦前戦中は農村＝越来(ごえく)村
 - ▶ 戦争(沖縄戦)で集土化、嘉手納空軍基地建設
 - ▶ 基地の街に
 - ▶ 駐留兵の減少、円高、郊外ショッピングセンター建設の影響で衰退
 - ▶ 基地の街の文化で街づくり



▶ 15



沖縄戦末期(1945)

▶ 16



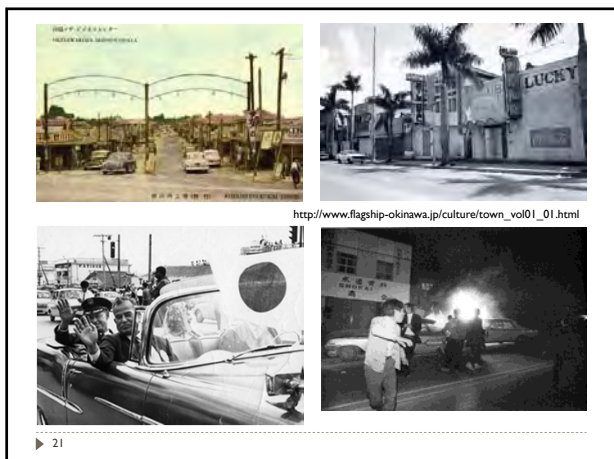
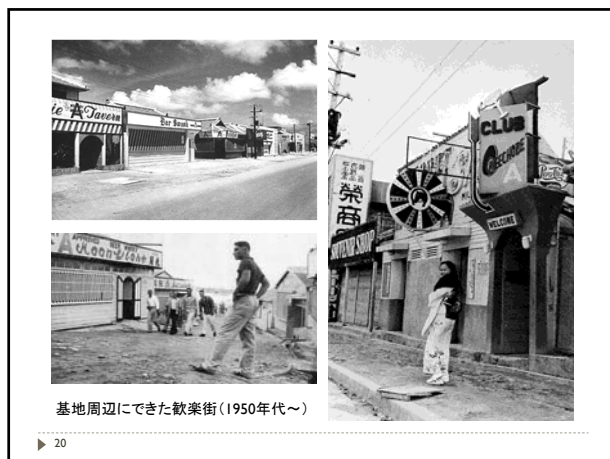
米軍による占領・統治(1945-72) <https://www.cataloghouse.co.jp/yomimono/dogun-shinsou/img/20111221/ph03.html> ほか

▶ 17



終戦後の越来村と照屋(1940年代)

▶ 18

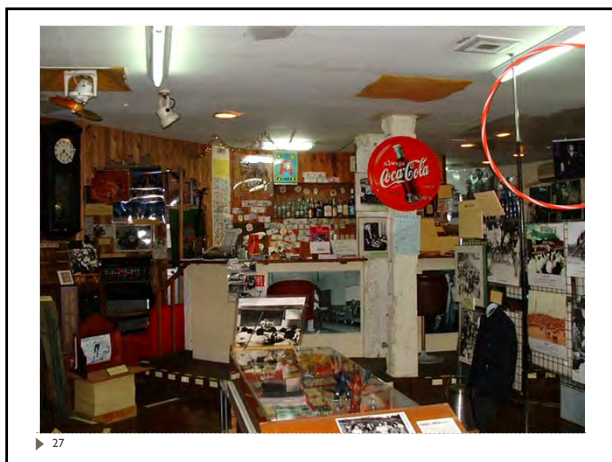




▶ 25



▶ 26



▶ 27



▶ 28



▶ 29

地域文化研究の課題 (2)

▶ 構築的なものとしての地域文化

- ▶ 地域文化は他者によって発見されて初めて登場(分節化)する
 - ▶ コザの場合、そうとも限らない=他者からヒントを得ているが、独自の自己アイデンティティへの意識が強い=基地の存在や那覇との差異化
- ▶ いったんそれが構築されるや、それはある種の物質性をもって当事者に迫りくる
- ▶ モノそのものまるごとではなく、あくまでも断片的に利用される
 - ▶ 日本人観光客向けライブツアーは「安全な」ライブハウス(しか立ち寄らない)→平日にローテーション営業(米兵はほとんどこない)

▶ 30